

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成16年1月(2004年)No.457

<新年ご挨拶>

アマチュア映像界のリーダー的存在として 一層の充実した楽しいクラブへ

会長 合原 一夫

明けましておめでとうございます。昨年はイラク戦争の話やパッとしない景気やら暗い話の中にも、阪神優勝等の明るい話題もありました。わがクラブにも安居良枝さんの思っても見なかったご他界された暗いニュースもありましたが、会員さんが40名の大台に乗り、作品出品数も過去最高の年間147本、1例会当たり12.3本を数えたこと、全国レベルのビデオコンテストに6氏10作品が今年も受賞したことなど、明るいニュースもありました。一方、例会場を梅田の大阪市立生涯学習センターに移し、テレビからプロジェクター投影の大映写に切り替えて例会を行って来ましたが、一年間やってみて何かと課題も多く出て参りました。その反省も踏まえ、例会場をもう一度原点に立ち返って各会場ごとの評価をし直した結果、12月に行われた世話役会で、難波OCATビル4階にある「難波学習センター」が最適との結論に達しました。

難波学習センターは大阪ビデオクラブ(OVC)の例会場ではありますが、例会日の違い、作品時間の制約、25インチテレビ2台と新しく購入する予定の新しい自前のプロジェクターとの違い、作風の違い、撮影会のあり方の違いなど、OVCとは一味違ったOMCではないかと思っております。

幸い、OMCの世話役の皆さんは、ほんとによくやって頂いております。OMCが近畿地区アマチュア映像界のリーダー的役割を果たしておられるのも、ひとえに世話役の皆様はじめ会員諸氏のご協力ご支援の賜物と感謝しております。OMCが益々楽しい充実したクラブになりますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げ新年のご挨拶といたします。

1月例会は18日(日曜)13時30分より

1月例会は総会(新年会)を夕方より行う関係で昼間の例会となります。場所はいつもの通り大阪駅前第2ビル5階大阪市立生涯学習センターです。どうぞ作品をお持ちになってご参集ください。年会費未納の方は会計まで納めてください。年初めの楽しい例会へどうぞ

例会場を比較してみました

項目	梅田	難波
研修室大きさ	71 m ²	60 m ²
定員	36名	36名
費用 部屋代	5,880円	5,020円
スクリーン代	700円	0円
年間ロッカー代	6,000円	6,000円
大型ロッカー	×	○
DV再生機使用	借用のウォークマン型	自前のDV機器使用可
ワイド画面上映	スクリーンの幅が狭い	スクリーンの幅が広い
昼間の例会時 部屋の暗さ加減	△ ブライト	○ 窓なし
音漏れの問題	△(×)	○
二次会	居酒屋組 喫茶店組 閉店が早い	○ ○ 予約可

評価結果：難波の方に軍配が上がりました
自宅からの交通機関で少し遠くなる方と近くなる方が出ますが、良い状態で例会を運営したいのでご協力をお願いします。

例会活動過去5年間の推移

年度	会員数	1例会あたり		作品数
		出席数	作品数	
H11	23.0名	23.0名	12.3本	146本
H12	23.1名	23.1名	11.5本	172※
H13	25.3名	25.3名	12.4本	149本
H14	26.4名	26.4名	11.3本	135本
H15	26.1名	26.1名	12.3本	147本

※この年度は15ヶ月でした。

毎年ほぼ変わりなく活発に活動が続いていることが判り、ご同慶の至りです。

■例会全出席者：今井、江村、関、前田、増池、森の6氏。

・11回出席者：有村、奥、河合、合原、華岡の5氏。

■最多出品者：11本出品：江村氏の1氏

・10本出品者：有村、増池の2氏。

以上万障繰り合わせて例会に出席して頂き、作品を出品された方々に感謝します。

■名簿訂正のお詫び

1. 玉井さんの名前が洩れていました
玉井 にご訂正下さい。
 2. 森口吉正さんの電話番号
0720-31-5341 → 072-831-5341
 3. 松本 昭さんの電話番号とアドレス
0720-45-1883 → 072-845-1883
akiranet@zeus.eonet.ne.jp
- 以上訂正してお詫びいたします。

12月例会のレポート

12月の例会は20日の午後6時より何時もの例会場で開催しました。司会、合原さん、書記、有村さん、デッキ係に江村さん、河合さん、受付兼照明係を渡辺さん、奥さんの担当で進行しました。

◆出席者：関、江村、有村、松本、増池、奥、合原、渡辺、岡本、河合、前田、藤原、森、今井、上総、玉井、森下、華岡、中尾、安居、進藤、金子の皆さん（敬称略）と見学者1人の23名と作品本数11本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村世話役です）

1. 永源寺（改作）

増池 茂さん 8分05秒

先月の例会で発表された作品を皆さんのご意見を取り入れて若干短めに作り直されて再度発表されました。美しい紅葉の滋賀県湖東の名刹を細かく描写されてよかったですと思いました。

2. 堺のまつり

森 保信さん 8分13秒

業務用まがいの巨大なカメラなら腕章がなくても行列に入れます、とは作者の弁。10月第3土曜、日曜に行なわれたイベントをお仲間と一緒に記録されました。行列物を作品にする難しさをエフェクトを駆使して要領よくまとめておられます。そのエフェクトが少し多過ぎるのでは、とのご意見もありました。

3. 初冬の中之島見て歩き

奥 宏さん 3分45秒

1週間ほど前に行って夕方から夜にかけて大阪市役所を中心にした地域をムード豊かに描いておられます。今年から始まった

イルミネーション通りの点灯の瞬間を捉えたり中々のご努力の後が見られました。楽しい作品でした。

4. パリの街角で

上総 修一郎さん 5分40秒

街角シリーズの第3作目との事です。パリ市街地の建物、ショーウィンドウ、オペラハウスと続き、その切符を買う人たちから人物が出てきます。シャンソンが歌われムードが盛り上がります。最後はピバルディの四季の編曲された演奏で終わる、5月の朝のひとつきの素晴らしい映像でした。

5. 光と影のページェント

前田 茂夫さん 7分16秒

京都梅小路機関区で2日間にわたって行なわれた夜のイベントを記録されました。蒸気機関車の過去の栄光の数々を女性アナウンサーが語る現場音がナレーションの代わりをしていました。機関車の煙がライトに映えてムードを盛り上げた見事な作品でした。

6. 女と女 関 剛さん 6分40秒

お知り合いの鹿児島在住の女性が撮影された、大分県臼杵市の竹宵というイベントを題材にして関さんが編集された作品だそうです。奈良の燈花会に似た夜の行事で、やがて神官らしき人々の行列から時代衣装の女性が輿にのって続きます。この二人の女性のどちらが主役か、女の心の確執がテーマだったと後からお聞きしました。残念ながら血走った目のアップがなく訴求力に欠けたのが原因のようです。やはりご自身の撮影でないとおねー。

7. 大阪の空の下

有村 博さん 4分50秒

大阪の市役所から始まって日銀、中之島、梅田界限の高層ビルを撮影し、五輪真弓の歌に乗せて作ったものです。「雨上がりの水溜りに街路樹の影がゆれている」という所の歌詞にはそれに合った映像をいれるべし、とのご指摘がありました。雨があがった日に再度撮影に行きます。ズボラしたらあきまへん。

8. 火の宴

河合 源七郎さん 5分29秒

三重県熊野市木之本の海上花火大会を記録して作品にしておられます。花火と云いますと音を自動で採ると何とも迫力がなくなります。そこで河合さんは現場のカメラ音を増幅して絵の少し後に低音をきかせて入れたり、火花のアップをスローで見せたりと大いに努力されて見せておられます。長さも程よく立派な作品だったと思います。

9. 祭礼 江村 一郎さん 6分15秒

東大阪の津原神社の夜の祭を取材されて発表されました。江村さんのカメラワークには独特の鋭い視点があるのが定評ですが、聞けばピントは全部オートで撮られたそうです。暗い場所で広角で動きの激しい被写体に密着し、露出だけはゲインを押さえて撮られたようですがピンボケがないのが不思議です。祭を楽しむ人々の生き生きとした表情がアップで出て、今日の例会での最高傑作だと思いました。

10. アマテラス

安居 利次さん 4分00秒

安居さんにしか作れない創作神話のようです。ふんだんにパソコンのエフェクトを駆使して昔のお話が進行します。歴史のお好きな作者の面目躍如です。「アマテラスは女です。おわかりかな男性諸君！」で終わります。おわかりかな、皆さん???

11. 酒は涙か溜息か

金子 博泰さん 3分00秒

ご高齢の作者が夜の道頓堀界限を取材されて煌めくネオンや華やかな看板をふんだんに撮って来られました。川面に映えるネオンの影もムードを出して、昔懐かしい歌で作品にしておられます。昔の、キャバレー・メトロや美人座の頃はよろしおましたなあー。今の南は味のうてあきまへんなあーとの事でした。今年の最後を飾るに相応しい作品との司会者のお言葉でした。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて2次会を楽しみました。

■最近インターネットで感激したこと

私のホームページ、ビデオスケッチの「都電のコーナー」には、昭和47～48年に撮影した、当時の新聞にもよく登場していた名物お巡さん、高橋良寛さんと都電とをテーマにした作品を載せています。以前にOMC例会でも上映したことがあるので記憶されている方がおられるかもしれません。ところがある日、高橋良寛さんの姪に当たる方からメールをもらいました。

内容は、「はじめまして、突然のメール失礼致します。「ありし日の都電」を見てメールしています。「私は電車にもSLにもあまり興味が無いので、兄が偶然発見しなければ知らないままでした。実は、高橋良寛は叔父です。母の弟です。あのような記録を残していただいて、また、ホームページに載せていただいてありがとうございます。東京に住んでいる兄がたまたま”高橋良寛”で検索したら私叔父のHPに出会ったそうで、早々母に電話をし、母はパソコンいじれないので、私に見てみてと連絡がありました。母は実家に長兄夫婦と住んでいるので、次の私の休みにパソコン持参で見せてあげようと思います。母はもう歳をとり、先日にも先に逝ってしまった叔父さんの話を2人でしていたばかりでした。私も大好きな叔父で、母も頼りにしていた弟でした。今度は映像を見ながら思い出話でもしようと思います。懐かしい映像ありがとうございます。これからもお元気で活躍してください。」というものでした。

このメールを見て私は飛び上がらんばかりに驚きました。30年も前の映像を偶然、親族の方が発見して見て下さったこと、そして私が、記録を残したことにわざわざお礼のメールを頂いたことに本当に感激しました。そこで、早速、インターネット映像でお母様に見せて上げるより、ビデオの方が大きくて綺麗なのでビデオテープを送りますから住所を教えてくださいと返信しました。

その後何度かのやりとりがあって、実家にビデオが届いたこと、姪ごさんは近々岩手の実家に帰るので、「ビデオを見て母と今は亡き叔父の思い出を語ります。」との

ことでした。また、「叔母（良寛さんの奥さん）と娘（良寛さんの娘さん）は東京に住んでいるので、そうそう田舎（岩手）に帰れない。そのために近くに住む母が良寛さんの墓を世話をしている。」「また叔父の墓前にこのことを報告します。」等などのお話がありました。

私は1本のビデオがこれほどご遺族に喜んでいただいて何度もお礼のメールをもらい、自分の趣味からの行為がこれほど関係者に喜んで頂いたかを知って、インターネットの情報力の凄さをあらためて認識しました。そしてアマチュアのビデオ作品をネットで公開すると予想を越えた思わぬ反響があることに驚くとともに本当に感動しました。

それから半月ほどして、アメリカから1通の手紙が届きました。宛名を日本語とローマ字で併記してるので、日本人かなと思いつつ封を切りました。無論差出人には全く心当たりはありません。手紙を見ると、何と、差出人は良寛さんのお姉さんからでした。良寛さんの姉は二人おられて、一人は岩手に、もう一人はアメリカにおられたのでした。岩手のお姉さんが、アメリカのお姉さんにテープを送られたのでした。こうしてインターネット・ビデオは日本のご親族へ、さらにアメリカへと海を渡っていききました。

このような出来事がある、私はますますインターネットの重要性を再認識しました。最近ブロードバンドが多くのご家庭でも引き込まれ、ビデオ映像を見られるようになりました。しかも最新技術では家庭でも、CRT一杯のフルスクリーン映像を私達の手で配信し、観覧できるようになってきています。かつてはネット映像は小さくて音も悪いという時代がありましたが、今はテレビに匹敵するほどに進歩しました。アマチュア映像の世界もあと数年でハイビジョンが広まってくると予想されます。既にインターネット映像もハイビジョン映像に対応できています。ますますアマチュア映像もインターネットを活用し、さらなる発展を期待したいものと思っています。

前田茂夫